

令和4年2月17日

校長室だより

第10号

座間市立相武台東小学校
校長 浜田 佐織



暦のうえでは、春を迎えています。今月に入り、2度も大雪の予報がありました。そのたびに学校は子どもたちの登下校に備え準備をしましたが、今のところどちらも積もる雪にはなりません。ほっと胸をなでおろしていると「雪合戦できなかった。」とため息交じりに残念がる子どもたちの声が聞こえます。子どもたちはどこまでも元気で、その姿に大人が励まされることもしばしばです。

また、感染状況が厳しい中、外出もしにくい時ですが、冬季オリンピック北京大会の様子がテレビで放映され、楽しみのひとつになっています。選手たちの身体能力の高さに脱帽するとともに、それぞれの選手のこれまでにドラマがあり、努力の道のりを知ると人間力の大きさにも圧倒されます。

コロナ禍が始まり2年が過ぎました。2年前、こんなに長い間このウイルスと対峙する生活が続こうとは誰が予想したでしょうか。変わらずの感染対策を続け、社会は何とか凌いでいます。このような2年間でも子どもたちは着実に成長し、学校での1年の終わりが近づいています。残念ながら、学年末の授業参観は中止となってしまいましたが、子どもたちの学びや成長の様子は、これから様々な形で保護者に伝えようと準備を進めています。お子さんからも取組の様子をきいてみてください。



学習用端末の活用のようす

今年度は、全校で着実に学習用端末の活用が進み、さまざまな学習場面で登場しています。将来的には、日常的な文房具のように活用することを目指していますが、コロナ禍のオンラインによる学習支援にも役立っています。3学期に入り複数のクラスで学級閉鎖がありましたが、その際も Meet による朝の会や帰りの会で、担任と学級の子どもたちが顔を合わせコミュニケーションをとることができました。また健康観察をしたり学習課題を端末上にあげたりしながら、取り組みの様子も画面で確認できました。画面の子どもたちは初日こそ緊張気味でしたが、数日のうちに慣れてきて、互いに会話を楽しむ様子も見られました。閉鎖中も担任や友達の顔を見て、安心して生活リズムも崩すことが少なかったようです。今後も状況に応じて活用を進めていきます。週末の持ち帰りや家庭学習も継続していきます。



令和3年度 学校教育アンケート結果より

保護者の皆様にご協力いただきました「令和3年度学校教育アンケート」の結果がまとまりました。ご協力に感謝するとともに、学校として、この結果を今後の学校教育活動に活かしてまいります。本日 LINE「連絡とれ〜る」でお知らせし、学校ホームページにも掲載いたします。ここでは、大きく4つの成果と2つの課題についてお伝えいたしますので、詳細はホームページやLINEでご覧ください。

【評価が高かった項目】 前年度より肯定的評価が5%以上あがったもの

○授業がわかりやすく充実している

大変嬉しい結果でした。本校では、教職員全員で授業づくり、授業改善に取り組んでいます。今年度は特に「書くことを通して考え、学び合う授業づくり」をねらい授業研究に取り組んでいます。授業がわかる、学校で学ぶことが楽しいと思えるよう取組を継続していきます。

○教育機器が整備され有効に教育活動に利用されている

教育機器の活用は数年前まで評価の低い、本校の課題となっていたものでした。国によるGIGAスクール構想を受け、座間市でも一人一台学習用端末が配備され、活用が一気に進みました。コロナ禍もそれを後押しする形となりました。教育活動の本質を見つめながら、必要に応じて有効的なICT活用をさらに進めてまいります。

○教職員は何でも相談できる雰囲気がある

コロナ禍という大きな困難を抱えながら日々を過ごす中で、児童や保護者の悩みや困り感はこれまで以上にあると捉えています。そのような児童や保護者に寄り添いながら支援できるよう、今後も相談体制の構築や相談しやすい、声をかけやすい教職員の対応を心がけていきます。

○教室や校庭は清掃が行き届き整理整頓されている

この設問は、ここ数年毎年肯定的な回答が増えています。コロナ禍にあつて日々の清掃・消毒を児童や教職員で丁寧に行ってきました。さらに業者による定期的なトイレ清掃・床清掃、PTAによる年間3回にわたる校地内整備等のおかげで、衛生的で整った教育環境が整備できています。

【課題となる項目】 前年度より肯定的評価が5%近く下がったもの

○安全に注意して登校・下校を行っている

アンケートの結果だけでなく交通事故につながりそうな事案や地域の方から交通マナーの悪さを指摘されることもありました。交通ルールを守り自他の命を守る行動がとれるよう、家庭や地域と連携した安全教育を進めていく必要があります。ご家庭でも、お子さんと話し合ってください。

○学校は楽しい

保護者・児童ともにこの設問に対する肯定的な回答が下がっています。特に子どもたちは6%下がってしまう残念な結果となりました。コロナ禍で、友達同士のコミュニケーションが思うように取れないこと、児童が楽しみにしている行事等が、中止や変更を余儀なくされたことが一因であると捉えます。学習活動はもちろんのこと、すべての教育活動の中で一人ひとりが居心地よく楽しく過ごせる工夫を重ねていきます。また、児童にも自ら考え主体的に楽しい学校生活を創れるよう指導・支援をしていきます。